2018年2月4日

ロータリー米山記念奨学会財団設立50周年記念式典

特別表彰　坂本精志氏による感謝の言葉

米山奨学会の50周年、おめでとうございます。私も楽しみにして参りました。

私の父は、島根県の松江中学を卒業して、上の学校に進みたかったのでありますが、農家で家が貧しくて、諦めかけておりました。その時に、出雲市にいる鈴木禄三郎さんという篤志家のおかげで進学が叶い、今日の私ども、それから、ホシザキがあります。後日、父は自分が受けた恩を返すためにと、同じことを島根県の後輩の苦学生合計150人に奨学金を出してきました。

それを見聞きしていた、私も何かしようと考えておりました。妻も子供たちも幸いにして何不自由なく暮らしております。私は父の跡を継ぎ、会社を上場、発展させることもそれなりにできた。従って、妻・子供たちに財産を残すのではなく、妻と相談しました結果、育てていただいた社会にすべてお返しすることにしました。

まずは、持っていた私と妻の自社株を現物出資し、一昨年に設立した坂本ドネイションファウンデイションを経由して、公益法人に寄付をしました。その一部を、私が一番関心のある米山に寄付を申し出、米山では定款を変更してまで受けていただきました。最初はホシザキの株を寄付しようと思ったのでありますが、それができませんので、こういう形を取ったわけであります。念願叶って嬉しい限りであります。

ただし、私にとっては、一度の大口寄付よりも、27年間、連続して行っております米山功労者、ポールハリスフェローの方が、こだわりが強いものであります。

私は今年で81歳になります。

やりたかった仕事も、趣味にも、全力で取り組んでまいりました。

これからは、会社の仕事は別として、取りかかっている複数のボランティアの仕事に取り組んでまいります。

奨学生ならびにＯＢの皆さんも、あなた方の夢を実現するために、一生懸命で生きてください。

世界のために頑張ってください。

以上